

第1回 平成27年度二酸化炭素回収・貯留分野評価検討会（2）

「二酸化炭素回収技術高度化事業 終了時評価」

「二酸化炭素削減技術実証試験 中間評価」

議 事 要 旨

1. 日 時 平成27年12月10日（木） 9：30～12：00

2. 場 所 経済産業省 別館6階第626・628会議室

3. 出席者

（検討会委員）〔敬称略・五十音順、※は座長〕

※宝田 恭之	群馬大学大学院 理工学府環境創生部門 教授
金子 憲治	株式会社日経BP クリーンテック研究所 主任研究
川上 浩良	首都大学東京 都市環境学部 教授
芝尾 芳昭	イノベーションマネジメント株式会社 代表取締役
梅田 健司	電気事業連合会 技術開発部長

（研究開発実施者）

中尾 真一	公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）化学研究グループリーダー
佐藤 譲宣	RITE 化学研究グループ サブリーダー
余語 克則	RITE 化学研究グループ 副主席研究員
後藤 和也	RITE 化学研究グループ 主任研究員
甲斐 照彦	次世代型膜モジュール技術研究組合（MGM） 技術部長
田中 豊	日本 CCS 調査株式会社（JCCS） 技術企画部長
澤田 嘉弘	JCCS 苫小牧建設部長

（事務局）

産業技術環境局環境政策課環境調和産業・技術室
課長補佐 川端 尚志

（評価推進課）

産業技術環境局技術評価室
技術評価専門職員 江間 祥三

4. 配布資料

資料 1 平成 27 年度二酸化炭素回収・貯留分野評価検討会委員名簿

資料 2 研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料 3 経済産業省における研究開発評価

資料 4 評価方法（案）

資料 5－1 「二酸化炭素回収技術高度化事業（二酸化炭素固体吸収材等研究開発事業）」の概要

資料 5－2 「二酸化炭素回収技術高度化事業（二酸化炭素分離膜モジュール研究開発事業）」の概要

資料 5－3 「二酸化炭素削減技術実証試験事業」の概要

資料 6－1 「二酸化炭素回収技術高度化事業（二酸化炭素固体吸収材等研究開発事業）」終了時評価用資料

資料 6－2 「二酸化炭素回収技術高度化事業（二酸化炭素分離膜モジュール研究開発事業）」終了時評価用資料

資料 6－3 「二酸化炭素削減技術実証試験事業」中間評価用資料

資料 7 技術評価書の構成について

資料 8－1 評価コメント票（二酸化炭素固体吸収材等研究開発事業）

資料 8－2 評価コメント票（二酸化炭素分離膜モジュール研究開発事業）

資料 8－3 評価コメント票（二酸化炭素削減技術実証試験事業）

資料 9 質問票

参考資料 1 経済産業省技術評価指針

参考資料 2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料 3－1 平成 24 年度 二酸化炭素固体吸収材等研究開発事業
中間評価報告書

参考資料 3－2 平成 24 年度 二酸化炭素分離膜モジュール研究開発事業
中間評価報告書

参考資料 3－3 平成 23 年度 CO2 固定化・有効利用分野技術に関する施策・事業評価報告書

5. 議事概要

議事概要

（1）開会

事務局から、事務局・研究開発実施者等の紹介が行われた。

宝田委員が本検討会の座長に選出された。

(2) 評価検討会の公開について

事務局から、資料2により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、配付資料、議事要旨を原則公開とするが、知的財産や企業戦略等に係る内容のものが生じた場合は、座長の判断で該当部分を非公開とすることが了承された。

(3) 評価の方法等について

事務局等から、資料3、4、7、8、9により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

(4) プロジェクトの概要について

事務局及び実施者から、資料5-1、5-2、5-3により、事業の概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

委員から、固体吸収剤実用化研究のスケールアップについての現段階の課題について質問があり、実施者から、固体吸収剤の磨耗性や安価で大量に合成する方法について検討している旨回答した。

(5) 今後の評価の進め方について

事務局から、「資料8-1～3 評価コメント票（評点シート含む）」について説明があり、評価コメント票の提出期限を平成27年12月25日とすることを確認した。

また、次回の第2回評価検討会は平成28年2月を目処に開催することとした。

以上